

INTERVIEW

about PROGRAM

INTERVIEW:

何のために、このプログラムを？

山口県は中国地方で最多4,000人規模の社会人口減少が進んでいます。村岡知事は企業誘致による雇用増で人材流出に歯止めをかけようとしています。それには、優秀な人材を確保し、成長産業を育み、育てる仕組みが欠かせません。ユニコーンプログラムは、自治体が誘致の柱とする制度融資ではなく、産学官金が連携してベンチャー企業を中堅企業へ、また地域を代表する産業へと成長させる独自の取り組みだと言えるでしょう。

INTERVIEW:

ユニコーンプログラムとは、 どういったプログラムですか？

山口県の産学官金が連携して、ベンチャー企業（スタートアップ企業）を育成、誘致。ユニコーンプログラムは、全国の才能を「山口に呼び込み、山口を世界に発信する」（吉村猛社長）という意気込みのもと、県内約60の企業や団体が、出資技術提携して、地域の主力産業へと脱皮させる独自のプログラムです。代表アクセラレーター（支援者）に同県出身の宮坂学フー会長を迎えるなど、地域の業態を超えた取り組みは、新たな企業支援として注目を集めることになるでしょう。「YMFGユニコーンプログラム」と題した取り組みは、山口県周辺地域に県内外の新興企業を集め、イノベーションを創出するのが狙いです。

※1 スタートアップ企業：「スタートアップ」とも呼ばれ、新しいビジネスモデルで急成長を目指す、市場開拓フェーズにあるベンチャー企業のこと。一般に急成長を目指すスタートアップ企業の場合、資金調達が大きな鍵となります。

※2 Phase（フェーズ）：局面。ここでは「第1段階」、「ステップ1」と同じような意味で使います。

※3 アクセラレーションプログラム：スタートアップ企業と大手企業が協力して事業共創を図り、短期間で革新的アイデアをビジネスモデルとして完成させる取り組み。

※4 ピッチコンテスト：ピッチイベントとも呼ばれ、短い時間で自社のビジネスモデルを端的に述べる催しのことです。今回はプレゼンテーション8分、質疑応答7分の計15分で行いました。

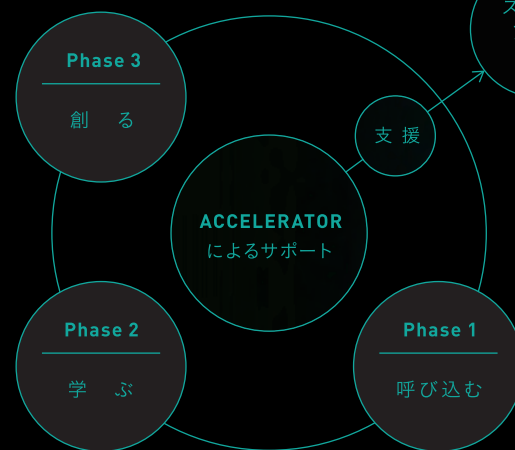


山口フィナンシャルグループ
投資共創部 部長
山根 孝

INTERVIEW:

第1回の成果はどうでしたか？

当初は、どれだけ企業が集まるか危惧していましたが、ふたを開けてみたら、ベンチャーコンテストの優勝者が出揃いました。半年後、どれだけ支援があったか、事業に着手できたかの発表会を行います。投資共創部が発足したのは、昨年6月、社長の吉村から「100億で何ができるかを考えてみてくれ」と言われ、YMFGは、30億円のファンドを立ち上げ、東京に拠点も設けました。10月には、今回のスタートアップ企業の呼び込みの枠組みを考え、準備に取り掛かりました。「いずれは山口から次々と企業が出てくるような基盤を作りたい」と吉村は語っています。年1回選ばれる10社から、山口発のベンチャー企業の“原石”が生まれるかどうか、まずは初回の成果が問われると考えています。



Unicorn PROGRAM

ABOUT

YMFG ユニコーンプログラム

YMFGが地方創生の一環として、地域から革新的なスタートアップ企業（※1）を輩出し、地域のイノベーション誘発と持続的成長のサポートを目的とするための3つのプログラムです。

Co-Creation（共創）プログラム

Phase 1 (※2)

山口・広島・北部九州における地域の社会課題を解決するビジネスモデルを持つ、スタートアップ企業を全国から地域に呼び込みます。地域の主力企業、行政、大学、金融機関等の主力プレイヤーが、スタートアップ企業に助言、提携、出資等を通じて、イノベーションを地域に根付かせ、地域産業として育成するアクセラレーションプログラム（※3）です。

地域アクセラレーター育成プログラム

Phase 2

起業家だけでなくそれをサポートする側（アクセラレーター）も育成します。現役のアクセラレーターから技術指導を受け、地域のアクセラレーターの成長を促します。育成されたアクセラレーターはPhase 3で実際にサポート側として参加します。

長州発スタートアップ企業育成プログラム

Phase 3

山口県からスタートアップ企業を輩出することを目的とする短期集中型の起業育成プログラムです。その中で早期事業化もしくは事業拡大が見込まれるビジネスプラン提案者は、次期Phase 1のCo-Creation（共創）プログラムに参加します。

ユニコーン
企業

スタート
アップ
企業

Co-Creation（共創）プログラム

第1回ピッチコンテスト開催！

5/24（木）に第1回ピッチコンテスト（※4）の本選を山口銀行本店講堂で開催。3/1（木）～4/27（金）の予選で選ばれた12社が出場しました。

世界を 駆ける

SPEAKER
File
04

アプリで登山をもっと楽しく安全に！

株式会社ヤママップ
代表取締役 春山 慶彦 さん

株式会社ヤママップは、登山アプリYAMAPを提供する会社です。YAMAPの特徴は、電波の状況に関係なくスマホで現在地を確認できることで、登山における遭難防止や事故防止に活用されています。ユーザー同士によるコミュニケーションツールとしても利用でき、登山の楽しみ方が広がるアプリです。YAMAPで自然の魅力を発信し、山口県内の市町村と連携して自然観光を展開していきます。

SPEAKER
File
05

再生可能エネルギー分野に新しい風を！

株式会社チャレナジー
代表取締役 CEO 清水 敦史 さん
チーフエンジニア 渡邊 汗 さん

株式会社チャレナジーは台風環境下でも発電可能な垂直軸型マグナス式風力発電装置を開発する会社です。突風や乱流が発生しやすい日本の風環境でも安定した発電ができる風力発電所装置を開発することで、風力発電の水準が比較的低い日本でも、安定した風力エネルギー供給を実現します。特に台風の影響を受けやすい沖縄地方や西日本の離島で活用できると考えており、地域分散型エネルギーの促進や災害に強い街づくりへの貢献、エコツーリズムの促進等、再生可能エネルギー分野にイノベーションを起こしていきたいと考えています。

SPEAKER
File
06

ICTで働き方革命！

株式会社grooves
代表取締役 池見 幸浩 さん

株式会社groovesは働く人の価値を高めるワークシフトを事業領域とし、ICTを駆使した人材活用インフラを提供する会社で、働く人が豊かに生きるためのシステムを提案しています。人口減少や人材不足による事業規模縮小、事業承継問題等の地域を取り巻く社会問題は深刻であり、当社が有する人材紹介ノウハウにより首都圏からYMFGエリアへのU、J、Iターンを推進することで、その課題解決に努めています。



Co-Creation（共創）プログラム

第1回ピッチコンテストの出場者をご紹介します！

SPEAKER
File
01

「お祭り」で日本を元気に！

株式会社オマツリジャパン
代表取締役 加藤 優子 さん

株式会社オマツリジャパンは“祭りで日本を盛り上げる”をコンセプトに活動する日本で唯一のお祭り専門会社です。昨今、少子高齢化やマンネリ化により活気がなくなりつつある日本のお祭りをプロデュースすることで、地域を盛り上げていきたいと活動しております。日本は約30万の祭りが存在する世界でも類を見ないお祭り大国です。我々のノウハウを是非とも山口県内やその他のYMFGエリア内のお祭りでも発揮していきたいと考えています。

SPEAKER
File
02

「地図」の新しい可能性を広げる！

株式会社Stroly
代表取締役社長 共同CEO 高橋 真知 さん

株式会社Strolyは、「デザインマップ」×「位置情報」のプラットフォームを運営する会社です。アートとしての地図の楽しさに、位置情報サービスを融合させることで地図の新しい可能性を広げたいと考え活動しています。地域や企業とコラボレーションし、ユーザーが今いる場所の多様なストーリーを体験できる地図を開発しています。山口・広島・福岡県の観光マップやイベント地図に活用することで、より楽しく、充実したコト体験をユーザーの皆様に提供できると考えています。

SPEAKER
File
03

AIが目利きする新時代を！

株式会社メキキ
代表取締役 吉田 悟 さん

株式会社メキキは、ブランド品、家の中にある不要なもの、使わなくなったものを、AI（人工知能）により買取鑑定するシステムを提供する会社です。このシステムを用いたメキキステーションという買取拠点を展開していくことで、動産の流動化を進め、二次流通マーケットにイノベーションを起こしていきたいと考えています。本選出場者の中で唯一、山口県を拠点に活動する企業ということもあり、地元企業代表として頑張ります。





ACCELERATOR

ビジネスを早く成長させるための支援や機会を提供。

ACCELERATOR
04柳澤 大輔氏 | 面白法人カヤック
代表取締役CEO

他のコンテストと比べて観客が多く、非常に盛り上がっているなという印象を受けました。スタートアップ企業とそれを支援する産官学界が一堂に会する機会はなかなかありません。今回はそれを見ることができてよかったなと感じました。

PROFILE >

カヤックを設立し、平成26年に東証マザーズ上場。古都鎌倉を拠点にしたゲームアプリやWEB広告等の面白サービスを総合プロデュースし提供する。

ACCELERATOR
05嶋津 紀子氏 | 株式会社Japan Search Fund
Accelerator 代表取締役社長

全12社のプレゼンを見終えて、全て面白いと感じました。東京に一極集中している企業・お金・人を、山口・広島・北九州などの地域に分散させ、そこが核となって地域の活気を呼びおこす。このプログラムなら、そんなことも実現できるのではと期待します。

PROFILE >

ポストコンサルティンググループに入社後、ソフトバンク、トヨタ等の経営企画に従事。米国にて起業や事業経営を研究した後、若い経営者を支援するファンドを設立。

ACCELERATOR
06新井 和宏氏 | 鎌倉投信株式会社
取締役

スタートアップ企業が山口・広島・北九州という地域で、どんなビジネスのカタチを作れば事業展開できるのかについて、どう考えているのか見ることができ、興味深かったです。具体的な事業化のビジョンを持った登壇者が多く、その熱意を感じました。

PROFILE >

鎌倉投信の創始者であり、社会性を重視し会社を評価する投資ファンド「結い2101」の運用責任者として活躍。「投資は「きれいごと」で成功する」など書籍も多数。



Message from ACCELERATOR

アクセラレーターの声

ACCELERATOR
01

山口をユニコーン企業の「牧場」に

このようなプログラムを開催されている銀行は珍しく、地方でこういった機会を設けるのは素晴らしいことだと思います。そのような素晴らしいプログラムだからこそ問いたいのは、ユニコーン企業が山口に来てほしいのか、あるいは山口からユニコーン企業を輩出したいのか。私は後者だと考えます。YMFGとしても、今後いかにして地域に出資先となる企業を増やしていくかは重要な課題であるはず。人口減少に伴い、取引先企業も業績も減少する。そのような現状をどう打開するか。そこで重要となるのが「何を地域のウリにするか」だと思います。東京ではなく、なぜあえて山口でその事業を展開するのか。そのローカル性・地域のウリこそがこのプログラムに参加されるスタートアップ企業への期待だと思います。銀行・行政・大学などが協力して、地方ならではのスピード感を活かし、新しいカタチの自営業者を増やしていくことで、山口をユニコーン企業の「牧場」に変えていく。そうしていく中で、山口を拠点とする企業がユニコーン企業として成長し、地域に活力をもたらす。今回のコンテストを見終えて、そんな近い将来を期待しています。

宮坂 学氏 | ヤフー株式会社
取締役会長

PROFILE >

山口県防府市出身。ヤフー入社後、メディア事業部長、執行役員、コンシューマー事業統括本部長、代表取締役社長兼CEOを歴任。平成30年6月、取締役会長に就任。

ユニコーン企業を目指す人たちとともに 地域にイノベーションを起こしていきたい

ACCELERATOR
03吉村 猛 | YMFG
代表取締役社長

ユニコーン企業を目指す素晴らしい方々が来られ、非常に刺激になりました。YMFGとして今後は、今回の登壇者をはじめとするいろいろな方とコラボし、支援していく中で、新しいものをどんどん生み出す仕掛けを作っていきたいと思っています。地域を元気にしていくためにはイノベーションを起こしていかなければなりません。そんなイノベーションを起こしていくような人たちを我々はこれからも後押ししていきたいと改めて思いました。

PROFILE >

山口銀行入行後、総合企画部長や取締役等、銀行とグループの役員を歴任。平成28年、取締役社長に就任。

意欲を持つ人が活躍できる 山口県にしていきたい

ACCELERATOR
02

村岡 嗣政氏 | 山口県知事

斬新なアイデアや強い意欲を持つ方がたくさんいらっしゃって、心強く感じました。地域の課題解決にも目を向けていただき、こうした人たちが増えてくるといいなと思いますし、是非そういった人たちが活躍できる山口県にしていきたいです。今回を皮切りに、こうした動きが広がっていくよう、我々もできることをしっかりとやっていきたいと感じました。

PROFILE >

自治省（現総務省）に入省後、北海道・高知県・広島市等での勤務や、総務省自治財政局財政課財政企画官等を歴任。平成26年に山口県知事に就任。